

**みやぎNPO夢ファンド(B)スタートアップ支援プログラム  
平成19年度助成事業 最終報告書**

書式 4

平成 20 年 4 月 28 日

団体名	発達支援ひろがりネット
事業名	第二回 発達障害支援情報交換会の開催～発達障害者の就労について～
連絡担当者お名前(ふりがな)	すずき ともこ 鈴木 朋子
助成金を使って行った事業について、ご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)	
<b>【日時・場所】</b> 12月16日 東北福祉大ステーションキャンパス 5F 10:00～16:00	
<b>【参加者】</b> 一般 114名 会員 93名 ボランティア 46名	
<b>【目的】</b> 発達障害に関わる団体・個人・当事者とその保護者が集い、発達障害者の就労に関する情報を交換することにより、発達障害者の就労を拡大するための基盤を形成する。 発達障害のある人の就労についての課題を広く県民に発信することにより、社会の理解を広げていく。	
<b>【アンケート調査の経緯】</b> 宮城県内の100人以上の企業に対して、発達障害者の就労の有無や啓発の意味も含めたアンケートを行い、結果報告をする予定であるが、先の企業を探すのに苦労する。行政(ハローワーク・ジョブカフェ)などに、協力を依頼するも、不調に終わる。とりあえず、できるところ、わかるところに対して、調査を実施。  会員から、養護学校高等部への進学希望が過熱しているとのことの情報。宮城県教育委員会高等教育課と特別支援教育課からお話を伺い、現在普通高校での特別支援教育がおこなわれていないことから、支援(特に就労への支援)のある養護学校高等部などへ、県内の発達障害のある学生の流入が起こっているのではないかと考えられた。高等教育は就労につながる場所でもあり、どのような支援が発達障害のある学生に有効なのか、また保護者の願いはどのようなものかと、情報交換会にきた人たちに対して、アンケート調査を実施することとした。	

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

【内容】

(支援情報交換会)

- ・基調講演 「はたらく大人に育てよう！」  
講師 角田みすず(NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク事務局長)
- ・アンケートのお願い 高等学校における特別支援教育について
- ・調査報告 県内企業アンケートの報告
- ・就労支援の最前線から考えるシンポジウム
  - 当事者からの手紙 アットマーク国際学園 南雲氏
  - 高校教育の現場から 宮城県立養護学校岩沼高等学園 及川一之氏
  - 障害者職業支援センターから 宮城県の障害者就労の現状、センターの役割  
佐藤正美氏
  - ハローワークから ハローワークでの発達障害者への支援の現状  
橋本秀之氏
  - 仙台サポートステーション 支援の現状と課題、宮城県若者支援ネットワ  
ーク協議会の試み  
松井直美氏

今回の事業によって、団体の活動や地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

発達障害の就労支援について、宮城県内の現在の情報を保護者・当事者・関係者に届けることができた。

発達障害のある人たちを仕事をする人に育てるためのかわり方などを、発信することができた。

情報交換会のシンポジウムを企画してゆくときに関わった関係機関との連携ができた。ここから、宮城県若者支援ネットワーク協議会に参加することができた。アンケート結果より県内で発達障害者の就労は大変厳しいものがあるということがわかった。また、回答の中から知的の障害が少ない方々の就労が、現状では隠れて見えてこないことが分かった。

ジョブコーチの存在が宮城県では見えてこないこと、受け入れ企業の少なさ、福祉の手帳あるなしにかかわらず支援は受けることはできるが、本人の自己認知が重要となってくるのが、シンポジウムで明らかになった。

新たな団体や会員の加入もあり、ネットワークを広げることができた。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

- ・発達障害のある人たちの就労は、企業・社会の理解、雇用率の問題、なども重要な課題としてあるが、同時に本人たちの自己理解・就労意識・職業イメージをどう育てるかも大変重要な課題となっている。社会への啓蒙啓発も必要であるが、発達障害のある人の自己理解・就労意識・職業イメージを育てるには、知的な障害の重い軽いにかかわらず、就労に関しての意図的な働きかけが必要である。

- ・現在義務教育レベルでの特別支援教育は行われ始めているが、特別支援学校高等部レベルで受けられる発達障害のある人に適した就労支援の選択肢が少ない。また療育手帳のない人たちの進学先での発達障害に適した就労支援のある学校の選択肢はないに等しい。

現在ある高校や、高等技術専門学校・宮城県障害職業開発校での現状を調べ、他県での先進例なども調査し、行政などにアピールしてゆくことが必要である。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。

また、その際に必要なものは何ですか。

- ・今後も、タイムリーに必要な情報を発信するために支援情報交換会を継続して行う予定である。
- ・また、アンケート調査も実施して情報交換会で報告してゆく予定である。
- ・今回の事業のあと、団塊世代・活動センターの方々と、学齢期からの職業イメージ・自己理解などを育てるための「実践社会塾」のプログラム開発を協働で行うことになった。
- ・これらの活動を展開してゆくのであれば、団体の基盤を整備していくことが、最優先課題である。  
そのためには人的資源や資金が必要である。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

### 収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	200,000	200,000	
自己資金	250,000	224,854	団体負担金 45,754円 参加費(資料代含む) 179,100円 (@700円×93 @1,000×114)
参加者託児負担金	78,000	0	
合計	528,000	424,854	

### 支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
会場費	85,000	68,570	施設利用料・付帯 設備費・看板代
印刷代	180,000	196,225	資料制作費(500 部×約120頁) チラシ(3,000枚)
通信費	15,000	33,186	切手・送料など
話題提供者 謝金	50,000	44,702	謝金, 講師昼食 など
交通費	30,000	30,580	講師交通費
事務消耗品	8,000	37,621	紙・封筒・文具・ コピー代ほか
託児委託費	157,500	13,000	@2600円×5人
雑費	2,500	970	
合計	528,000	424,854	

寄付をいただいた方へのメッセージをどうぞ

今回助成金をいただいたことで活動が広がり、各関係機関との関係も作ることができました。心から感謝しております。しかしながら、活動が広がったことから自分たちが力不足であることを実感しています。

でも、毎年生まれてくる発達障害のある人たちと保護者が、いま私たちが経験しているような心細さ・悲しみが少しでも軽減されて、自分に必要な支援を胸を張って選ぶことができるよう、活動を進めていく所存です。

今後とも、応援お願いいたします！